

和歌山病院での実習を終えて



古谷 真彦

今回、呼吸器内科の臨床実習の一環として和歌山病院で実習させてもらい、大変有意義な2日間を過ごせたと思っています。

1番身に染みて感じたことは、南方院長による胸部レントゲンのセミナーの際に何度も言われた、自分で頭を使い、考えて勉強することが大事だということです。

このセミナーでは、医学生が苦手とすることが多いレントゲンの原理、読影の仕方について教えていただきました。なぜここに線ができているのか、だいたいではかわかっていなかったシルエットサインについても詳しく説明していただき、今まで臨床実習で担当患者の胸部レントゲンを見る機会は多くあるなかで、自分で考えようとせず、すぐに担当先生方に聞いていましたが、これから少しは自分で考えてレントゲンを読んでいこうと思いました。

すぐにレントゲンが読めるわけではなく、これからも自分で考えて勉強していくことで、より早く読影できるようになると思うので、自分で考えてレントゲンを読んでいこうと思いました。中学、高校生の時には自分で考えて勉強することなんて当たり前だと思っていましたが、大学生になり、目の前の試験を合格するためだけに、ただただ覚えるだけの勉強をするようになってしまい、自分で考えることの大事を改めて感じることができました。そしてまた、南方院長が何度もおっしゃられた「良い医者」になれるように、これから勉強していきたいと思います。

また、駿田副院長による結核セミナーでは、県内唯一の結核病棟があるということで、実際に結核病棟を見学させていただきました。陰圧室など、結核病棟ならではの装置を実際に見ることができ大変勉強になりました。

夜は南方院長に食事に連れて行っていただき、宮古姫などの、地元まつわるお話をしただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

最後になりましたが、お世話になった先生方、スタッフの皆様、このような勉強の機会を用意していただきましたこと感謝申し上げます。